

子安の観音

奥畑の下の方、久保橋の上に小さなほこらがあります。

これは、江戸時代のことですが、このあたり沢山の狐がいたそうです。そして、よく化かしたと言う事です。それも余り悪い事はせず、天気の良い日には子狐がよく、ひなたぼっこをしていたそうです。ところが、その頃、この辺りに道を通すことになりました。

石が重なり合って、丁度、狐のすみかによい処でしたが、ほどなくして道は出来上りました。今まで沢山の狐の姿は見えなくなりましたが、里人が夜、この辺を通ると背負子の中の品物がなくなったり、時には、同じ道を往ったり来たりして、夕方から朝まで、一晩中そのあたりで過ごすなど、何か狐に化かされたというような事が度々ありました。

それと、今まで里人たちが、この道をつけたことに対して狐にすまないというような気持ちから、誰いうとなく狐の霊を慰めるように石塔をたてました。この辺に沢山の狐がいて、子狐も沢山の事から、子供を沢山の産む狐の霊を慰めるのだからと、子安の観音の名を付けました。

沼田風土記 28 ページ

昭和 58 年 3 月

広島市沼田公民館より